

構造工学委員会「災害時の緊急架設を目的とした緊急仮設橋に関する調査研究小委員会」
委員の公募

土木学会構造工学委員会では、以下の研究小委員会を新たに設置いたします。この小委員会に参加頂ける方を公募します。本小委員会の目的および内容は以下のとおりです。

<委員会名称>

災害時の緊急架設を目的とした緊急仮設橋に関する調査研究小委員会

<委員構成>

委員長：東北学院大学 教授 中沢正利

幹事長：一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 小野秀一

委員：公募により募集

<設立趣旨，活動内容>

我が国ではこれまでに、地震、津波や台風、豪雨など幾多の自然災害を経験し、今後もそれらの災害の脅威と共存していかなければならない。また、繰り返されるゲリラ的な自然災害は後を絶たず、多くの尊い命が脅かされる事態が発生しており、今後は南海トラフ地震等による広域被害の発生も懸念されている。一方で、災害から国民の財産と人命を守るために、災害に強い国土（防災基盤）づくりのための、様々な研究開発や防災・減災・復旧・救助体制の整備が行われている。

このような中、救援物資や復旧工事に必要な資機材運搬等のための輸送路の速やかな確保および既存道路橋の応急復旧を目的とした、道路橋示方書に基づいた設計基準により設計・製作された応急組立橋については、全国の地方整備局に配備されるなど、重要な場面においての使用実績も多く、一定の目標は達成できているものと考えられる。

しかしながら、さらに緊急を要する人命救助や孤立地域の早期解消といった観点、被災後の生活に関わる既設の中小規模橋の仮復旧といった観点など、被災状況に応じて求められる内容が多岐・多様であり、加えて被災地では状況が混乱していることに対応するため、道路橋の規定とは異なった観点的、災害復旧に特化した緊急仮設橋としてのカテゴリーが必要であると考えられる。近年、これらに対応すべく緊急仮設橋の開発事例が見られるが、要求性能やそれに応じた設計規準などの整備が十分ではないなど課題は多い。

そこで、各種災害による橋梁被害の状況と緊急仮設橋の現状と課題を整理するとともに、被災状況に応じた緊急仮設橋に求められる性能、あるいは規準の整備に向けた検討課題を整理する。

- ①橋梁の被害状況と復旧課題の整理
- ②緊急仮設橋の現状と課題の整理
- ③緊急仮設橋に求める性能や設計規準の整備に向けた検討課題の整理

<活動方法>

まずは、全体会議を開催し、各方面からの情報を集めながら、活動の意義の明確化を図ります。その後、WGを設置し、それぞれの活動を行いながらも、全体会議を通じて委員全員の情報共有を重要視したいと思っております。

本委員会はD研究グループに該当し、活動期間は活動開始から1年間とします。また、将来のC委員会（活動期間2年間）への移行を視野に入れた基盤形成と位置づけています。旅費、交通費の支給はありませんが、Eメール等を活用した運営を予定しておりますので、遠方からの参加も歓迎いたします。

<応募の方法>

本委員会に委員として参加を希望される方は、(1)氏名、(2)所属・役職、(3)連絡先を明記の上、(4)応募理由（簡単で結構です。運営の参考にするためお伺いします）を添えて、下記の申込み先までE-mailで応募して下さい。なお、応募者数によってはご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご承知おきください。

委員の専門分野としては、構造分野（鋼構造、木構造、複合構造など）、防災分野を主なターゲットと考えておりますが、他分野の方や、若手技術者の応募も歓迎いたします。

<活動期間>

2019年3月1日～2020年2月29日（予定）

<応募締切日>

2019年1月31日

<申込み・問合せ先>

〒417-0801 静岡県富士市大淵 3154

一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所

TEL：0545-35-0212，FAX：0545-35-3719

E-mail：ono@cmi.or.jp

以上